

だい き やま と し た ぶん か きょうせいかい ぎ だい かいかい ぎ ろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第19回会議録(要約)

にち じ ねん がつ にち ど
日時: 2018年1月13日(土)14:00～16:00

ば しょ やま と し やくしよぶんちようしや かいかい ぎ しつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅつせき い いん いし ま い どうもと み い の み さと くする み こ し しょうじ しら
出席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤素美、猪野美里、楠瑠美子、東海林まりえ、白
とりせつろう た の い さい な ふ かわたかつね やま と し こくさい だんじよきようどうさんかく か はしもと ふじ
鳥節郎、田野井咲奈、府川貴恒)／大和市国際・男女共同参画課(橋本、藤
かわ こうえきざいだんほうじんやま と し こくさい か きょうかい さか い た なか こ にし いしかわ い じょう
川)／公益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上
めい
14名

けっせき い いん せ や ま り けいしりやうやく
欠席: 委員(ウプレティ マトリカ、瀬谷麻里、ハゲイ パトリシア)(敬称略)

ほんじつ かい ぎ
1 本日の会議について

ぜんかいかい ぎ ないよう ふ かえ がいこくじん かか か だい かいけつ わたし
前回会議の内容を振り返り、外国人が抱える課題を解決するために私たちができること
なん あらた けんとう けい い ふ がいこくじん じょうほうていきょう か だい
は何なのか改めて検討した。これまでの経緯を踏まえ、外国人への情報提供の課題に
かん かいけつほうほう しゅだん い か と あ なか わたし かい ぎ
関する解決方法(手段)について、以下の3つを取り上げた。この中から私たちの会議で
じっこう かいけつさく えら め ざ い けんこうかん おこな
実行する解決策を1つ選ぶことを目指して意見交換を行った。

がいこくじん がいこくじん そと つ だ
(1)外国人を外国人コミュニティの外に連れ出したい

こま まわ ひと し えんしや
(2)困っている周りの人を支援者にしたい

こま じょうほう ほうほう ふ こま まえ じょうほうしゅとく
(3)困ったときの情報のアクセス方法を増やしたい。あるいは、困る前の情報取得をか
んたんにしたい

こくさいこうりゆう しんせつ
国際交流サロンの新設

き あたら こくさいこうりゆう らいじょうしや
○まだはっきり決まっているわけではないが、新しくできる国際交流サロンには来場者を
あんない ひと お よ てい たてもの きやうと しゃかん ふく し かん り
案内してくれる人を置く予定。建物は旧図書館を含めて市が管理する。

こくさいこうりゆう いま い だんかい
○国際交流サロンについては、今はまだどう言う段階になく、やってみなければわか
らないところがある。とにかく行ってみようと思ってくれるようにサロンを周知し
なければ誰も来ない。せっかくできるのだから、みんなが関わることのできる体制をつく
れるとよい。

こくさいこうりゆう し みんどう し し ぜん こうりゆう もくてき がいこくじん む
○国際交流サロンは市民同士の自然な交流を目的としている。ただし、外国人向けとい
う意味合いが大きい。日本人が利用する目的が薄くなってしまうのではないか。

い み あ おお に ほんじん り よう もくてき うす
せっかくなので、例えば、外国人の文化を紹介できるブースを設ければ日本人もこの
サロンに来やすくなるだろうし、外国人の文化を大切にできる場となるのではないか。

こくさいこうりゆう かた こくさい か きょうかい にちじょうてき ぎょう む かい
○国際交流サロンのあり方については国際化協会の日常的な業務になるため、この会

議のテーマではないが、いろいろな意見を参考にして国際交流サロンをより良いものにしていきたいと思っている。私たちが(1)～(3)のどの解決方法を選んだとしても、課題を解決するのに国際交流サロンが役立つものと考えている。

国際交流サロンの活用

○3つの解決方法から1つを選ぶのがそんなに重要なことなのだろうか。3つをよく考えてみれば、どれをとっても実現できる可能性のあるものだと思う。国際交流サロンができるとしたら、(1)と(2)は解決できる可能性が高い。そのためにも、とにかく来てくれないと話にならないが、国際交流サロンをうまく活用できるようにすることがキーポイントになる。その場所に行けば何か知ることができる、ということが周知されるとよい。

○例えば、国際交流サロンがあるという情報を広くお知らせすることを一つの課題として捉えた場合、①外国人に直接知ってもらう、②学校の先生などを通じて知ってもらう、③国際化協会などによる情報発信を通じて知ってもらう、という3つの解決方法が考えられる。実際に行動する上でどれを選ぶか決めてもらえるといい。私たちの負担感も考慮しながら1つの解決策を選ぶのがいいのではないか。

○私たちがやることは「あれか、これか」ではなく、「あれも、これも」だと思う。(1)を達成するにあたり、国際交流サロンができたようなので行ってみよう、と外国人が思ってくれるようにするところから始めてもいいのではないか。自分たちを縛り付ける必要はない。

○私は(3)を選んだ。外国人が集まるのであれば、必ず食べ物がある。国際交流サロンができれば、みんな行くと思う。シリウスでも場所は確保できるが、自分たちの場所なのではない。その他に飲食ができないなどの制限もあるので、外国人には無理。子どもたちを遊ばせたり、本が読めたりできるなど、自分たちの居場所ができるといい。

○今私たちは国際交流サロンのことを議論しているが、サロンはひとつの例に過ぎない。(3)とサロンは切り離して考えた方がいい。

○どうやったら外国人に情報が届くか、というのが本来のテーマ。その意味で国際交流サロンも活用できると話している。外国人に届けたい情報はたくさんあるのだが、受ける側の外国人はその準備ができていない。その準備を私たちがしてあげないといけないのだと思う。より良い生活のために、どうすれば外国人が興味を持ってその情報を得たいと思ってくれるか。何十年も同じことを繰り返している。

○場所があれば集まることができる。月に1回の集まりとかでなく、いつでもその場所に行くことができるのがいい。

○国際交流サロンを活用することも外国人に情報を届ける方法の一つ。

- 例えば、その場所にフィリピンワールドの人をどうやって来てもらえるようにするか。ダンスをするか、バーベキューをするか。
- 興味を持ってもらうのが大事。届ける情報が日本で生活する上で大事な情報だと外国人に思ってもらわないといけない。でも、成人の場合、自分のルールができてしまっているの、今から日本語を覚えようとしてもなかなかむずかしい。自分のルール、殻から抜け出すのは相当むずかしいこと。

わたしが じっこう 私たちが実行する

- 今日の会議は報告書の内容を決めることが趣旨なのではないか。
- その通りだが、この会議の当初から話してきた通り、実行をともなった報告書でないと意味がない。
- つまり、私たちはもれなく第5期でも委員を続けていくということか。
- そうではなく、第4期の委員が多文化共生会議の枠組みを超えた形で継続的な課題解決策を実行していくということ。どれくらいの負担であれば事業に参画していけるのかも考えながら意見を出してもらえるといい。
- かんたんに言えば、来年度私たちは何をするか決めるということだ。
- 加えて、この会議の形式上、新しいメンバーが増えることはなかったが、これからはこの課題解決に関わることができる人を新しく連れて来てもいいはず。
- 国際交流サロン実行委員会などと言い切った方が、正確ではないにしても分かりやすいと言えば分かりやすい。

がいこくじん じょうほう とど かた 外国人への情報の届け方

- (3)にした。やはり情報の発信をどうするか考えた。国際交流サロンはまだイメージがわからないが、目の前に広い駐車場がある。その場所を使ってフットサルやバスケットなどのスポーツをやってみてはどうか。あるいはバーベキューパーティを行って、例えばフィリピンの人限定にしてみた場合、コミュニティから出てきやすくなるのではなかったりした。そのように考えると(3)ではなく(1)なのではないかと思ったりしている。
- (1)に関して、コミュニティが場所を変えても意味がないと思った。国際交流サロンにリトルコミュニティが生まれるだけでは決して交流とは言えない。そのコミュニティを柔らかくほぐしていくためには、誰か助けてくれる人がいた方がいい。(2)なら自分でもできそうだなと思った。(1)だとコミュニティに入っていない外国人を見落としてしまうような気がした。日本語教室に行くとコミュニティに入っていない外国人を見かける。

- (3)を選んだ。(2)については、学校の先生を集めるとなると継続性を考えるとむずかしいのではないか。(1)にしても、継続性という意味では、毎回同じ人なのか、異なる人なのかわからないのだが、できるのかどうかわからない。
- 私たちが主体となると(2)になる。(1)については、外国人のことを理解しないといけないので、むしろ私たちがコミュニティの中に入っていけばいいのではと思った。外国人をコミュニティから連れ出すにはまずは信頼関係がないといけない。(3)については、ずっと議論していても進展がなかった解決策なのではないかと思う。
- 私自身は任期が終わった後どうするか考えている。国際交流サロンに行って「さくら」になることはできる。あれをやって、これをやって、は個人的にはむずかしいだろうと思っている。例えば、わたしが何かをやるうとしてどこかに声をかけたら「あなた何？」と言われるのがオチだろう。
- ただ、外国人にサロンに来てねと個別に声をかけたところで、来てくれない。先日、コンサートに外国人を無料で招待する話があったのだが、申込みしてもらっても実際には申し込んだ人の半分しか来なかった。出て来て下さい、と言っても単純には来てくれない。個別に声をかけて、再度参加の確認までとっても実際には来てくれない。国際交流サロンがあったとしても、それを活用するのはかんたんではない。私たちがさくらになるのはかんたんだけれど、外国人をさくらにするのはむずかしい。
- 今の話は(3)と(1)の話が一緒になっているような感じがする。
- 私はやはり(3)だと思っている。お話できる場所がほしい。
- 国際交流サロンはどういう場所になるか。
- 国際交流サロンという場所ができるにしても、その場所を周知するための情報の届け方を考えないといけないのだと思う。その情報をどうやって外国人の耳に入れるか。国際交流サロンができました、というただそれだけの情報であったとしても、届けるのがむずかしい。たったそれだけの情報を届けることでもむずかしいのだから、他の情報であればもっとたいへん。どうすれば興味を持ってくれるか。情報はかんたんには届かない。その方法を考えることが一番。
- それが本当にむずかしい。例えば、国際化協会のことを何十年と伝えてきたが、来ない人は来ない。Facebook など情報の届け方はいろいろあるが。
- 困りごともある。SNS の活用をどうするか。LINE など他のアプリを使ってもいい。
- 今の話は、国際化協会があるよ、と外国人に伝えただけでは来てくれないということ。場所を教えただけではダメで、やはり、国際化協会と一緒に連れて行く必要がある。行動に移すためにはどうすればいいか。

- 国際交流サロンの居場所づくりを一緒に考えようというのはいかがでしょうか。
- すごいと思う。
- 最初は一人だったとしても、継続して連れて来る人を増やすことでしか広がりを持たせることはむずかしいのではないかと。声をかけた人の半分しか来なかったとしても、繰り返し返していくほかない。
- 一度サロンに来て良いものだと感じてもらってそれを広げていく。
- それに関しては、私たち自身が一度国際交流サロンを体験してみないと誰かに伝えることもむずかしい。もっと良くするために私たちができることを考えると、例えば日本語教室の協力を得ることもあっていいのではないかと。少なくとも教室の学習者は来てくれるわけなので。
- ダイレクトメールを1,000通送っても3通しか返ってこないことがある。しかし、残りが無駄になるからやめよう、という話ではない。反応がないのは興味がないから。興味を持ってもらうには実際に見てもらわなければならない。チョコレートを出すのもいいかもしれない。あとは誰がサポートしてくれるか。国際化協会だけでやろうとしても無理。自分の周りには知っている外国人はいないので連れて来ることもできないが、サロンにいれば何かしら関係性が生まれる気がしている。とにかくやってみよう。
- どんな国際交流サロンにするかをこの会議で決めるわけではないが、課題解決のために国際交流サロンを活用することができる。
- オープンスペースがあるのだとしたら考えがある。昔から思っていることだが、日本人の中でフィリピンのイメージがあまり良くない。だから、イメージアップしたい。もし、オープンスペースでできるのだとしたら、フィリピンの紹介をしたい。フィリピン人や日本人、いろんな人を巻き込んで何かしたいと思っている。

2年間のまとめと外国人の居場所づくり

- 私たちは2年の会議を終えるにあたっての活動報告をしないといけない。となると外国人の居場所づくりを考えたことになるのだろうか。
- 私たちができる具体策としては、フィリピンデーをはじめとしてできることは多いと思う。どこに課題解決の重点を置いて具体策を実行していくのか決めることになる。
- (1)か(3)になるのではないかと。(3)は外国人が困ったとき、困る前の情報取得をかんたんにしようとするもので、外国人が情報にアクセスしやすい状態をつくること。
- それはどこかに集まるとか、居場所があるというイメージが強い。今まではその居場所というものがあったので、この会議でどうしようかと話してきた側面もある。会議の結論

として居場所の話し合いをしてきたということでもまとめていいのだろうか。

○私たちがサロンをつくったというのであればまた別だが、この会議があってもなくても国際交流サロンはできる。国際交流サロンを使ってどうやって課題解決を図っていくのか、という話にしかない。

○教育と情報提供の課題を取り上げて、2年の会議を進めてきたので、2つの課題を解決するという点は外せない。その課題と外国人の居場所を結びつけることができればいいのかもしれない。

○国際交流サロンに行けば掲示板などを通じて情報が得られるので情報提供にもなるのではないか。

○しかし、困ったときには信頼できる外国人に直接連絡をとった方が早いので、サロンに行って解決しようという気は起こらない。困ったことがあったら、国際化協会やサロンに行ってみようと思われているわけではない。まずは信頼できる外国人を頼るわけだが、その他にも外国人にとって頼ることのできるリソースを増やすことができるとうい。サロンに遊びに行ったりして足を運んでもらい、そこでも信頼できる外国人に聞いたときと同じように情報が得られると思ってもらえるような状況をつくれるとういのではないか。

○まずはサロンに来てくれることが重要ではあるが、情報を入手しようと思ったり、何か困ったことを解決しようと思ったりしてサロンに行くことはない。どうしたって身近にいる親切な外国人に勝るものはない。情報提供の課題を直接的に解決できるツールとしてサロンを活用することはむずかしいかもしれない。

外国人に情報を届けるためには

○(1)の場合、信頼関係がないとむずかしい。(2)は人材を確保しないといけない内容なのではないか。残るのは(3)。集まる場所を確保できるものとして考えると、外国人のみんなに来てもらうには工夫しないと足を運んでくれない。例えば、先着何名に対してお菓子作りを教えるとか、この日は料理とかお茶会をやるとか、何か楽しいイベントをやることにすれば来てくれるのではないか。人によって興味が違う。お菓子作りをすれば、それに興味がある人は来てくれる。月に一回でもお花をやりましょう、とか興味が引き起こす小さなテーマを設けてみたらどうか。

○フィリピンの企画をするのであれば、フィリピンの人も一緒に考えてもらいたいと思う。実現できたら、フィリピンの人だけでなく、フィリピンの文化に興味がある人なども来ると思う。(1)につながる話だが、だとすれば、今までカトリック教会などフィリピンワ

ルドにしか行かなかった人が、自分のコミュニティ以外にも足を運ぶことになるのではないか。そのときどうやってフィリピンワールドにこの情報を伝えるかが問題で、委員を通じてお願いするか、スマホのアプリを使うか。

○企画が定着していないうちは仕方ないので誰かを頼るしかない。誰かフィリピンのコミュニティにも顔が利く人を通じてしか情報は届かない。定着していくうちに広がっていく。例えば、毎月第2土曜日にやっているよ、というふうに情報が広がっていくのではないか。

○(1)と(3)では、どちらが大事なのだろうか。外国人を連れ出すことか、外国人に情報を渡すことか。

○まずは足を運んでもらうことが大事なのでは。そこでまた今後来ようと思ってもらえるように。とにかく1回来ないと始まらない。

○日本人はどうだろうか。国際交流サロンができたからと言って、行ってみようかと思う人はいない。

○だからこそイベントをやるのではないか。外国人と交流したいと思ってもどこに行ったらいいのかわからない日本人は多いと思う。外国人との交流イベントに気軽に参加してもらったらいい。

○交流イベントという情報をどうやって日本人に伝えるかは工夫すべきところ。最初のうちはやはり私たちが頑張って周りの人たちに声をかけ続けるしかないのではないか。最初から大勢の人は集まらない。

○不特定多数の人に向けられた情報に人は興味を持たない、という報告がある。

○でも、まずは情報を届けようとしないうち何もしない限り何も始まらない。

アプリをつくるか、人を育てるか

○今の話が(3)に関するものか、(1)に関するものか、わからない。

○(3)はアプリをつくるということ。

○スマホのアプリを使って、外国人をコミュニティの外に連れ出すと言った場合、それは(3)ではなく、(1)になる。

○(3)は、アプリを使って外国人に情報提供しようとするもの。どうすれば情報を届けられるのか、一番いい方法を選ばないといけない。外国人にとってみたら、情報にアクセスする手段が増えるという状態をつくるということ。

○(3)のスマホのアプリの場合だと、不特定多数の人に向けての情報発信という意味合いが強いが、その他にもアプリ上で困りごとへの対応もしていく。

○例えば国際化協会のFacebookで県営住宅の情報を発信しているが、その外国人がFacebookで質問をくれたりすることはない。アプリの問題点は、せっかくアプリを運営したとしても、それが自分のために存在するものだとして外国人に分かってもらうのがむずかしい。

○やはりアクセスしているのは日本語が分かる人なのだろうか。

○アプリを使いこなせる人は問題ないのだが、外国人も日本人も対面で話を聞かないと分からない人がいることも確か。そういう人はやはり母語の相談窓口を頼らざるを得ない。信頼されていることはいいこと。その代りは日本人でもできるのではないだろうか。

○外国人にとって、情報が得られるリソースが国際化協会だけでなく、いろんなところから得られるようになればいい。今私たちは外国人のためのリソースをどのように増やしていくことができるのか、話合っている。その一つとして SNS を取り上げた。さらに人（ヒューマン）の育成にも触れた。（3）にしても、アプリではなく、相談窓口をつくるなど人（ヒューマン）での解決という事例も考えられる。

○外国人に対応できる人間を増やすことができればよい。最近大和市では子育て支援窓口が増えたので親は助かっているようだ。外国人にとっても、そうした相談窓口があることがわかるといい。

○そのためには市の職員に対して研修の機会をつくろうという話になってくる。

多数決による決定

○多数決で決めていいのではないか。

○その前に、まず市や国際化協会の人に行方してもらうのではなく、私たちが実行するのが前提でよい。できるのかどうかも判断材料に入ってくる。

○(2)であれば、私たちが学校の先生や市の職員に対して研修の機会を設定する。資金調達の必要があれば、クラウドファンディングなり国際化協会に交渉するなり、いろいろなやり方が考えられる。

○例えば学校の先生を集める場合、私たちから話すだけでは偏りがあるのではないだろうか。専門性のある方をお招きしないといけないかもしれない。コーディネートする上でもこれを解決したいという目的が決まっていた方がよい。

○今日の段階では継続的な開催というより依頼に応じて、としている。学校の先生とのパイプをつくって、そのための機会を設けるようにする。

○仮に(1)と決まったら今後、どう進めていくのか確認したい。また、(1)と(3)の違いを整理しておきたい。その上で多数決をとった方がいいのではないか。

○(1)はイベントを行うということ。

○イベントとは催しのことで、コミュニティの外に連れ出す意味はないのでは。

○毎週末、同じ国の人たちでバーベキューを楽しんでいる人が、今週だけは国際化協会のイベントに参加している場合、外国人コミュニティから連れ出しているというイメージがあるのだが。

○連れ出す人は困った人なのだろうか。

○困った人というよりは誰でもいいのでは。日本食をつくりたがっていた人とか、この間会ったフィリピンの人というように。

○イベントをするだけではなく、外国人を連れ出す。居心地のいい場所とするための工夫をする、外国人が参画しやすいような企画をする、といった場合も(1)に近い。

○月に1回行うなど開催頻度はまた別途相談していけばいい。大きなイベントでなくても小さなイベントであってもいい。例えば、5～6人くらいの規模でできるものとか。

○(2)は研修会を行う。学校の先生や自治会、近所の人たちを対象にする。外国人の近くにいる人、日本人に対する研修の機会をつくる。

○(3)はスマホのアプリを活用する。つくるのはかんたんだが運営はむずかしい。みんなが集まるのがたいへんだとしたら(3)という選択になる。

- (3)について、残念ながら、スマホのアプリは能力的に自分には関わりがむずかしいので協力できない。
- (3)は課題解決になりにくいのではないかと。県営住宅の問合せがあれば誰かが応えないといけませんが、メンバーが自分で返答した場合正しい情報だと言えるのだろうか。
- アプリに事前情報を掲載していくのではないかと。例えば、夜に子どもが熱を出したらどこへ連絡すればいいのか書いておく。クリックすれば情報にたどり着く。
- 生活ガイドを考えると活用されることは少なく、困ったらすぐに信頼できる外国人に聞くことが多い。検索するにしても日本人であれば検索するのかもしれないが、外国人にとっては検索がむずかしいのでは。
- 事前に情報を得るために検索するのであれば、大和市のホームページだって使ってもいいのでは。
- 日本人はできると思うが、果たして外国人はどうか。運営としては分かることだけ答えて、わからないことであれば国際化協会などを紹介する、ということになるのではないかと。
- アプリ立ち上げ当初は委員や委員のお友だちが利用して広げていけるといい。最初のうちは、「さくら」が必要なのではないかと。
- ただ、人によってはできないので、みんなができることがいいのではないかと。
- 私たちが行うので、自分ができることを選ばないといけな。
- この会議のみなさんがやらないと意味がない。これはできないということがあれば事前に話しておいてほしい。
- (3)のアプリについては2名が協力不可。(3)はアプリ上で、この日本語の文章を誰か教えてください、翻訳してください、という問合せがあったときに誰かが回答したり、翻訳したりするしくみをつくっていくもの。ただし、機械翻訳は間違っていることが多いので注意が必要。

組織の立ち上げ

- 多数決をとる。(1)6名、(2)2名、(3)0名。私たちは情報提供の課題を解決するために外国人を外国人コミュニティの外に連れ出すという解決策を実行していく。
- イベントをするにしてもどこで何をするか、できるのかを含めて検討していかないとけない。
- 場所は国際交流サロンを活用する可能性が高い。フィリピンデーという意見もあった。
- フィリピンデーについては、フィリピン文化を紹介するコーナーを常設するのか、単発の

- イベントを行うのか、どちらにしても組織を立ち上げないことには検討もできないし、継続していかない。
- イベントを行う際の資金はどうか検討しなければいけないのではないかな。
- これだけの予算があるので何をするか考えるという流れが現実的。これをやろうと思っても予算がなければできない場合もある。
- 例えば盆踊りをやるとした場合、知り合いに無料でやぐらを組んでもらえたら費用はいらない。その他に費用がかかることがあるかもしれないが、いずれにしても組織化をしなくてはならない。
- 音頭をとる組織を決めないと何も具現化していかないの、いいことを言っているだけではダメ。一人ひとりに企画を持ち寄ってもらうにしても、それを集約する組織や場がないといけないのではないかな。
- 実行委員会を立ち上げるにしても、集まる機会も限られてくるのでメーリングリストで見を集約したりしていくのではないだろうか。
- 大元となる組織はこの第4期多文化共生会議の委員であって、あとはみんなの声かけによってメンバーを増やしたりすることができる。
- とはいえ、次の会議の日程調整とか、別に統括する組織があつて、その他に私たち実行委員会があるという形でなければ動きにくいのではないだろうか。
- もちろん国際化協会も協力できると思うが、例えばこのメンバーの中から代表を決めて進めていくなどの方法でもいいのではないかな。会議の中では課題を解決するための組織を立ち上げた、というところで終わり、それ以降のことは報告書を出して会議が終わった段階で決めてもいいものかもしれない。
- グループなどという言い方でもいいと思うが、実行委員会と名称を決めておいた方がよいのだろうか。
- 最初に立ち上げる場合は運営組織委員会との名称で活動を始めて、ある程度動いてきたらグループにしていってもよいのではないかな。
- 賛同する人を増やしていくために、立ち上げの段階から私たちメンバーが周りへの声かけを頑張っていく必要がある。
- おそらくこのメンバーの中から先頭に立ってくれる代表を選んでおかないといけないと思う。
- 会議はもう1回ある。2月に最後の会議を行う。報告書の内容を読み合わせて、意見交換を行う。
- まずは実行委員会を立ち上げて、私たち委員が自動的にメンバーになるということま

ではこの会議で決まると理解している。

○この第4期会議では新しい委員の補充はなかったわけだが、新しい組織であればメンバーは新規で加入できると思うので、新しい人の意見もいろいろ聞いてみたい。

○誰が代表になるかは別として、今日の会議でここにいる皆さんがメンバーとなって組織を立ち上げることは決まったので、共通理解としておきたい。あとはみんなで周りに声をかけるなどして頑張るということ。

○こういうものができるのだろうか。持ち寄り交流会をもう一度やってみるのはどうか。他にも、お茶会やフィリピンデーなどイベントは考えればいくらだってやりようがある。フリーマーケットをやれば、私たちの活動資金も確保できるのでは。

○マラソンチーム(Dale ! Dale ! コクサイ)も一緒にできればいい。

2 その他

次回は2月17日(土)14:00～同じ市役所分庁舎2階会議室で会議を行う。

以上